

理想 第十二號 (理想社發行、價壹圓)

本誌秋期特別號として、「現代思想研究」と題する倍大號が發行された。その要目次の如し。

フツセルの現象學(特にその現象學的還元) 高橋 里美
新哲學の指導原理 杉森孝次郎

意味的論理學の「意味」 山内 得立
形而上學の現象學(現代に於ける世界觀說の歴史と理論) 三木 清

現代價值學の諸形態(考察の序論) 岩崎 勉
新ヘーゲル學派の立場(及びそれに對する二三の設問) 大江 清一

鬭争の時代鬭争的文化 土田 杏村
マルクスと社會學 加田 哲二

アメリカニズムとサヴァエーティズムとの交錯 石濱 知行
マルキシズム批判としての新カント派社會學(主としてシユタムラー及びナトルプに就て) 丸山 岩吉

何處へ往く(現代文化の力とその方向) 矢吹 慶輝
新フランス學派の宗教社會學 古野 清人

思想 十月號 (岩波書店發行、價壹圓)

本誌も特輯號として「辨證法研究」と題し、増大號を出版した。その要目は左の如し。

行為と歴史、及び辨證法のこれに對する關係

現象學と唯物辨證法 田邊 元
デアレクチケー 本多謙三

ヘーゲルの史的辨證法に就て 鈴木權三郎
辨證法に於ける自由と必然 河野 正通

一般者の自己限定(下) 三木 清
ヘーゲル辨證論文獻 西田幾多郎

フツセルの事 鈴木權三郎
拙著「現象學叙説」について 高橋 里美

菩提樹の蔭 山内 得立
遊就館 中 勘助

遊就館 内田 百閒

雜報

松本博士を送る

前京都帝國大學教授文學博士松本文三郎氏は本年五月を以て、還曆に達せられたので、停年の内規により退職せられた。博士が印度哲學上に於ける貢獻の大なること、また多年大學の教

授として、多くの英傑を養成せられた功績の大なることは、こゝに喋々するに及ばず、既に世間一般に熟知のことである。その後多年教學上の功勞の故を以て京都帝國大學名譽教授となられ、十月七日には知友門下の企てによる還暦祝賀會を受けられたのである。

本哲學會は博士多年の御指導を忝うしたのであるが、本會の規定により遺憾ながら博士を委員の中より送らねばならなくなつた。願はくば益々御健康に注意せられ、自由な立場に於て教學上に貢獻せられんことを祈ると共に、尙從來の如く、本會の爲に間接の御指導を賜はらんことを切に希ふ次第である。

教育研究會 去る十月八日夜學生集會所にて、左の講演を聞く。

藤樹學の發展

加藤 仁 平君

ついで同月十六日夜學生集會所に於て、更に左の講演を聞く。

今後の國語教育

奥野 庄太郎君

新刊紹介

倫理學會

去る十月二十五日夜藥友會館に於て左の講演あり。
カントに於けるホモ・モーメントとホモ・フエノメント
に關する一小考察
西田 禎 文君

哲學茶話會

去る十月二十六日文學部第十番教室に於て西田幾多郎博士の講演を聴く。

寄贈圖書

安岡正篤選註(聖賢遺書新釋叢刊 第七)

靜かなる時の爲に 菜根譚新釋 下

金鷄學院刊行

寄贈雜誌新聞

哲學雜誌	昭和四年十月	第五一二號
丁酉倫理會講演集	同十月	第三二四號
思想 特辨證法研究	同十月	第八九號
倫理研究	同十月	第四號
大東	同十月	第二四卷第七號
理想 秋季特輯號	同十月	第一一二號
全人	同十月	第三九號
社會學	同十月	第三卷第一〇號
眞宗研究	同九月	第二二六號
學校教育	同十月	第一九六號
生理學研究	同十月	第六卷第十號
信濃教育	同十月	第五一六號
宗教と藝術	誕生二百年記念號	
願	同九月	第十卷第三號
悲	同十月	第九四號
帝國大學新聞	昭和四年九月三十日、十月八日、十月十四日、十月二十一日	